

経営学科

水口 剛 先生



——水口先生のご専門は環境会計だとお聞きました。環境会計とは具体的にどのようなことをする学問なのでしょうか？

水口 どういう学問か、といわれると、なかなかお答えするのが難しいですね(笑)。というのも環境会計はまだ、学問的に体系化された分野ではないんです。そもそも会計というのは、企業の経営の成果を計算し、企業に投資してくれる投資家に報告するためのツールです。だから会計学は、経営成績をどう計算すれば企業の実態が正しく投資家に伝わるのかを研究します。

今までの会計は、会社の利益だけを計算していました。どんな人でも利益が大事ですから、投資する人も儲かる会社に投資をしたいわけです。だけど実は利益だけでは見えない部分がたくさんあります。そして、利益だけでは見えない部分に、環境や社会のためにならないことが隠されていることがあります。

例えば、東京電力は日本でも一、二を争う優良企業でした。会計を見てもいい会社だという情報しか出てこないし、安定して儲かるから皆が安心して投資していた。だけど実際には原発のリスクを抱えていたわけですね。そのとき、たとえば事故が起きてしまえば、その後の賠償費用などはわかりますけど、地域の人が被った苦痛の本当の大きさや、事故が起きるリスクなどは、いまの会計システムでは分らないのです。

原発だけではないんですが、とにかく、利益を計算しているだけでは見えてこない部分を見えるようにして、企業をより広い視野から評価しようというのが、環境会計の基本的なコンセプトなんです。

——お金だけでは見えないリスクだとか長期的にみると生じてくる弊害を数字で測って会計に当てはめるといふ学問ということだととらえていいですか？

水口 そうですね、ただ何でも数値化すべきかというところ難しいところもあって、僕も悩むんですね。やはり何でも数値化できるわけではありませんから。それに、accounting(会計)という語はそもそも、“account for”から来ていて、これは「説明する」という意味じゃないですか。だから、別に数字だけが会計じゃ

金融を通じて 社会が変わる

ない。最近は「会計」じゃなくて「情報開示」って言うようにしてるんです。たまに、「あなたがやっているのは会計じゃない」って言われるんですけど(笑)。

今は環境問題と他分野の境目がだんだんなくなってきています。例えば、食糧の問題はある意味で環境問題です。更にそれは貧困や格差の問題とも結びついているし、人権も関わってくる。そうした環境と社会の双方に関わる問題を「持続可能性」という言葉で表すことがあって、それにならって、「持続可能性会計(sustainability accounting)」という人たちもいます。

——水口先生は公認会計士でもいらっしゃいます。どういう経緯でいまご専門にたどり着いたのでしょうか？

水口 僕はもともと会計士をしていたんですが、会計士の仕事はあんまり好きじゃなかったんです(笑)。会計士をやりながら環境保護団体の活動もしていたんですが、両方は大変だったので会計士事務所はやめて、会計士の受験学校で講師をして、それで環境保護団体の事務局をやりました。

その一方で、会計士協会でも環境会計や社会的責任投資のことなどを研究して、論文を書いたり、本を作ったり、割と一生懸命していたんですよ。そしたら大学の先生たちとも知り合って、学会で共同研究の発表もするようになった。で、ある人から監査論の公募があるから応募してみたらと言われて、応募してみたら採用された(笑)。そういう経緯で高崎経済大学の教員になったので、大学の先生というものがよく分からないままにこの大学で教えるようになってしまっ……。

——でも、「これをやらなきゃいけない！」って気持ちで何かをやり始めたら、大きな運動に巻き込まれ、巻き込まれただけじゃなくて、そこから成果が出て、しかもその成果がきちんと評価されるというのは理想的じゃないでしょうか？

水口 これをしなきゃいけないっていう思いだけは強くありましたね。



会計のルールを 社会にとって正しいものに 変えるのも会計士の仕事

——昨年も何人かの先生にお話をお伺いしたんですが、偶然この道に入ったという方が多いんですね。目標を決めるばかりがいいわけじゃないってことかなと思います。

——環境問題にはいつごろから興味をお持ちだったんでしょうか？

水口 具体的にこういう活動に関わり始めたのは会計士になる前後ですね。でも、学生のころから環境問題に関心はありました。海が好きでスキューバダイビングをしていたというのがありますが、本格的に環境のことを考えるようになったのは26、7歳ぐらいの時です。

その頃はちょうど1980年代後半で、地球環境問題がクローズアップされた時期でした。南極でオゾンホールが発見されてフロンガスが禁止されたり、地球温暖化が注目を集めて、IPCCが作られたりした。92年にブラジルでリオサミット（国連の主催で開催された環境と開発をテーマとする国際会議。通称「地球サミット」）が行われますが、そのサミットに向けて日本でも環境問題に対する意識がすごく盛上がったんです。しかもそれがバブル経済崩壊の時期と重なっていました。経済一辺倒ではなくて環境を重視していこうという雰囲気が高まっていったんですね。

あと、僕が環境に興味を持ち始めたころ、アメリカでは社会的責任投資（SRI）という活動をしている人たちが企業に環境に関する情報開示を要求し始めていました。会計の仕方を変えれば、投資家の行動が変わって、投資家の行動が変われば、社会の仕組みが変わる、そういう考え方ができてきたんです。社会的責任投資というのは、たとえば、途上で児童に労働させている企業とか核兵器を作っている企業には投資しない。その代わりに、環境に配慮している企業や社会的に意義のある活動を行っている会社に投資する、という投資行動です。

でも、そのためには企業をきちんと評価するための会計あるいは情報開示が必要になる。それを聞いた時、「あ、それって自分の仕事じゃないか」と思ったんです。会計士のやるべき仕事があるところではないのか、と。

今の会計士の仕事っていうのは、企業が会計のルールを守っているかどうかをチェックすることなんですが、そもそも今ある会計のルールは本当にこれでいいの



か？ この会計のルールを社会にとって正しいものに変えていく、それも会計の専門家の仕事なんじゃないのか。そのことが分かって、会計士の役割の大切さを再認識したんです。

——ここまでお話を聞いていて、なぜ環境会計や社会的責任投資のことを今まで知らなかったんだろうと思ったのですが……。

水口 なぜ環境会計が知られていないのかというと制度になっていないからです。簿記から始まる会計の勉強というのは全部試験があって、その試験に合格して資格が取れると仕事につながる。だからそういうのは教えやすい。でも、環境会計を勉強したからって資格がとれるわけじゃないし、仕事になるわけじゃないから、やっている人も少ないし、誰も教えない。

僕の一つの目標は、投資家が環境や社会について配慮して投資する社会を作ることです。そのためには、企業が環境や社会にどう配慮しているかについての情報が会計制度の中に組み込まれ、きちんと公開されるようにしなければなりません。それが義務づけられれば、必然的に、会計をやる人、証券や金融分野に行く人たちは環境とか社会のことを勉強しなければいけなくなる。そういう社会にしたい。

たとえば証券会社に勤める人は証券アナリストの試験を受けている人が多いと思いますが、この試験はマクロ経済やファイナンス理論を勉強するだけでとれます。でももしアナリストの資格試験に環境問題の科目があったらどうなるか？

証券アナリストは、人から預かったお金を色々な会社に投資する分岐点にいます。だから彼らがお金をどこに動かすかによって社会が変わってくる。非常に責任の重い仕事です。それだけ責任が重い仕事であるなら、目先の儲けだけでなく、自分がそこに投資をしたら環境や社会はどうなるのかということについての考えや責任を持つべきだし、そういうことが分かるだけの知識がなければやってはならない仕事だと思うんです。

あるいは、それだけの知識と見識があるからこそ高い給料をもらえるという仕事にしなければならない。多分、もともとはそうだったんですね。金融の世界は



給料が高い。もちろんそれは規制産業で競争が制限されているということもあるけれど、公共性が高い仕事であり責任が重大だから、優秀な人材を集めなければいけないし、そうすると給料も高くなってしまおうということだったのでしょ。でも、いまは本当にそうなっているのか。

——お金の動きで社会は大きく変わる。ならば、そのお金の流れに携わっている金融分野の人たちはそのことを自覚しなければならないし、自覚してもらうためにはまずはアナリスト試験の内容を変えていくのが手取り早いだろうということですね。儲けだけを考えるというのは20世紀では当たり前だったかもしれないけど、これからはそれしか考えないなどというのは知的怠慢だということになるでしょうね。

水口 今までは社会全体のことを考えるのは政治家の仕事でしたけど、政治家の力だけでは社会はよくなりませんので、投資家もそれを考えないといけない。金融は新しい社会をつくっていく上でとても重要な役割を担っているんです。

——どうもありがとうございました。



水口 剛

高崎経済大学経済学部経営学科教授。
筑波大学第三学群社会工学類卒業。ニチメン(株)、英和監査法人、
TAC(株)などを経て、1997年に講師として本学に着任。
2008年より現職。